

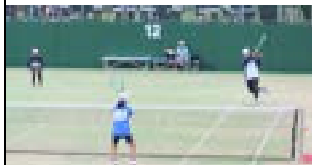


祝吉中学校だより



令和7年8月26日

☆ 夏休み中の頑張りに感謝 ～ 部活動・地区別ボランティア



今年の夏休みも、生徒は、様々な活動に意欲的に取り組んでくれました。

部活動では、多くの生徒が県大会に出場し、日頃の練習の成果を発揮しました。白熱した試合で勝利を収めた生徒、惜しくも敗れたものの悔しさをバネに次を見据える生徒、それぞれが真剣な表情で全力を尽くす姿は



とても印象的でした。また、夏休みの練習時間を割き、大会の補助員として運営を支えてくれた部員もいました。

吹奏楽コンクールでは、予選会、そして選考会と、会場に足を運んで演奏を聴かせてもらいました。予選よりもさらに真剣な表情で、楽しそうに演奏する姿は、顧問の先生から話を聞いていただけではわからない、生徒の成長と熱意を強く感じさせてくれるものでした。感動的な演奏をありがとう。



また、地区別ボランティアにおいても、生徒の活躍が各地区の広報誌で紹介されていました。公民館の清掃や花の苗植え、地域の方々との交流など、それぞれの地域に貢献する生徒の姿に、地域の方々も感謝してくださっていると思います。中学生として、地域とのつながりを大切に活動する生徒の皆さんに感謝します。

今回の活動を通して、生徒の成長した姿をたくさん見る事ができました。この経験を、今後の学校生活に活かしてくれることを期待しています。

☆ 平和への願い ～ 大雨災害、戦後80年 ～

今年の8月は、記録的な大雨が日本各地、特に九州地方に甚大な被害をもたらしました。ニュースの映像を見るたびに胸を痛めた人もいたのではないのでしょうか。このような災害を経験する中で、私たちは日々の安全や平穏がいかに尊いものかを改めて考えさせられます。そしてそれは自然災害だけでなく、人の手によって引き起こされる「戦争」についても同じです。

私は7月末、1年生と一緒に演劇「桜舞」を鑑賞しました。舞台上で描かれていたのは、約80年前、戦争という時代の中で、愛する人や家族のために、自らの命をかけて戦地へ向かった若者たちの姿です。彼らは決して未来を悲観していたわけではありません。未来が幸せな世界であるようにと願い、命をかけて平和へのバトンをつないでくれました。

日本が80年間、大きな戦争や紛争を経験することなく、平和な国であり続けていることは、世界的に見ても誇るべきことです。しかし、この平和は決して当たり前にあるものではありません。私たちは、日常に感謝しながら、どう平和な未来へとつないでいくか考え、行動していく必要があります。



2学期は、まず身近な「学校の平和」を意識しましょう。そのための第一歩が、「思いやりの言動」です。災害が起きたとき、人々は助け合い、支え合います。学校生活でも同じです。身近な人に対して、どのような言葉をかけ、どのような行動をとることが人として正しいのか、常に考え、判断し、行動することから始めてください。インターネットやSNSで様々な情報が飛び交う今だからこそ、顔を合わせて生活する仲間と協力し合うことが大切になります。自分の行動に責任を持ち、「個人」という狭い視野ではなく、世界という広い視野を持って、正しい判断ができるように成長していきましょう。